

# Technical Data Sheet

溶剤系アクリル粘着剤

## ガラス高密着、酸フリー型粘着剤

アクリル酸エステル系共重合物を主成分とした溶剤系粘着剤です。

酸を含有していない為、タッチパネル用のITO膜を劣化させません。またダイカラック5250は、樹脂組成を改良し皮脂に対して耐性を付与しております。

### ■ 一般物性

製品名	ダイカラック5021	ダイカラック5022	ダイカラック5250	P-7394(開発品)
外観	無色透明			
不揮発分(%)	30	30	40	45
粘度(mPa·s/25°C)	6,000	3,000	14,000	4,400
溶媒	酢酸エチル			
理論Tg(°C)	-45	-60	-25	-30
分子量	100万	100万	60万	40万
特徴・用途	対ガラス、OCA・ウインドウフィルム		耐人工皮脂性	対ガラス、高耐久

### ■ 粘着物性

硬化剤量 (g/100g粘着剤)	0.1	0.1	0.1	0.6
粘着力 (N/25mm)	PMMA	15	12	16
	ガラス	20	13	20
耐ITO腐食性	0.1	0.2	0.1	-
耐湿白化性(Haze)	○(0.3)	○(0.1)	○(0.3)	-
耐人工皮脂性	×	×	○	-
耐久性 (煮沸試験 10min)	×	×	×	○

粘着物性測定方法: JIS-Z-037に準拠(測定温度/湿度 = 23°C/50%)

粘着シート構成 : <基材>コロナ処理PET 25μm / 粘着剤 50μm(dry) / <セパレーター> PET 38μm

※P-7394のみ、<基材>コロナ処理PET 100μm / 粘着剤 200μm(dry) / <セパレーター> PET 38μm

エージング時間 : HDI系無黄変タイプ、東ソー社製「コロネート HX」の場合 50°C×7days

TDI系 三井化学社製「タケネートD101E」の場合 40°C×3days→[P-7394]使用

粘着力測定 : 貼り合わせ60min後180°C引き剥がし法(300mm/min)

ITO腐食性 : アモルファスITOフィルムに粘着シートを貼付し60°C・90%RH環境下1,000hrs放置。湿熱前と湿熱1,000hrs後の抵抗値変動率を算出。

耐湿熱白化性 : 60°C・95%RH環境下1,000hrs後の被膜状態を目視で確認。初期との変動差を記載。

耐人工皮脂性 : 被着体ガラスに粘着シートを貼付し2kgローラーで1往復で圧着。粘着剤側面に「人工皮脂液」を多めに塗布。

85°C×85z%RH×48hrs後の状態を確認。(○: メクレ1mm以下、△: メクレ1~5mm以下)、×: メクレ5mm以上)  
人口皮膚液(トリグリセライド / イソステアリン酸 / スクアラン 配合物)

煮沸試験(耐久性): ガラスに貼り合わせた後、10min間煮沸試験を行い、試験後の外観を評価。

○: 外観変化(発泡、浮き、白化等)なく良好、×: 外観変化あり



Daido Chemical Corp.

Functional Materials Sales Dept.

TEL: +81-6-6471-0594

URL: <http://www.daido-chem.co.jp>